

「令和４年度豆類経営改善共励会 関東農政局長賞」受賞者の取組概要

【栃木県】

褒章名	関東農政局長賞
候補者団体	農事組合法人日光アグリサービス
所在地	栃木県日光市芹沼 840－1
品種名及び 作付面積	里のほほえみ 39.2ha （参考）令和２年度：27ha、令和３年度：30.9ha
10a あたり 収量	197kg/10a （参考）令和２年産：149kg/10a、令和３年産：174kg/10a
県平均単収	187kg/10a
	【集団の沿革】 平成 10 年に「芹沼大豆組合」を設立し、芹沼地区における大豆の基幹作業受託の中心組織となったのが始まりである。平成 24 年に「日光アグリサービス」を設立。現在 17 名の構成員で水稻・大豆の共同作業、経理一元化、肥料資材共同購入等の活動を行っている。令和 4 年時点で日光市大豆栽培面積の約半分となる 39ha を作付。水稻と大豆を組み合わせたブロックローテーションを実施。
	【技術改善の取組】 ・排水性改善のため、播種前にハーフソイラによる心土破碎を実施。 ・湿害対策として、播種同時畝立栽培を実施し、播種～発芽時における湿害回避。 ・「里のほほえみ」はべと病に弱いため、ほ場における病害虫発生状況を細かく観察し、虫害対策を含む適期防除を実施。
	【省力化・生産コスト減、新技術への取組】 ・養豚を経営している構成員から堆肥を提供してもらい、土作り及び化学肥料節減。 ・各農業機械を共有し、組作業による効率化・迅速化を実現。 ・3 台のドローンを活用した水稻用薬剤散布を行っており、大豆においてもドローンによる薬剤散布を実施予定。
	【経営改善・地域農業への貢献】 ・JA 日光大豆部会の新規防除草剤展示圃としては場提供をし、部会活動へのけん引役を担っている。 ・薬品メーカー、全農とちぎ（肥料部門）を招致し、新技術や新資材の情報を積極的に取り入れ、経営改善に取り組んでいる。
	【販売・消費拡大への取組】 ・地元特産品である「日光ゆば」の原料として地元企業に大豆を提供。